

第 112 回医療ビジネス研究会のご案内

直近の有効求人倍率(2016年9月季節調整値/厚労省)は1.38倍となり、2009年以降雇用情勢は増加傾向にあり、近年においては業種間格差が広がり人手不足が進行している状況であります。保健師、助産師等/2.37倍、介護サービスの職業/3.19倍(共に2016年9月パート含む/厚労省)と、医療・介護などの福祉関連分野の人材不足が鮮明になっています。記憶に新しい相模原障害者施設殺傷事件(2016年7月26日)や川崎サ高住(サービス付高齢者住宅)連続殺人事件(2015年)も、少なからず人材不足が背景にあるといわれます。(反面、人手不足を事件や事故の原因とするのは極めて短絡的であります。)

問題の本質はサービス提供者のコンプライアンスやガバナンスなどの組織力の欠如であり、経営者及び企業体質の問題であります。(緊張感のある、人の採用・教育・管理等の日常の業務で回避できた事件でもありました。)福祉分野などのサービス(財を提供する)業の生命線は「人」であり、その潜在力を最大化させる組織力の維持・強化は不断の組織活動がなければ成就されません。(コンプライアンスやガバナンスが脆弱な組織は、医療機関に加え産業分野を問わず事件や事故が多発する傾向があります。)

成熟社会の要請は事件や事故の回避だけではありません。安全で質の高い福祉サービスが求められることから、組織力の向上と同様に個のスキルの向上が求められています。行政が要求する資格・研修制度もそのような状況の促進のため整備されつつありますが、事業者の視点からすると乗越えるべくハードルが限りなく続く状況にあります。(人手不足の中での人材の確保、事故防止、サービス向上を目指す人事管理、各種資格制度への対応や職員のモチベーション向上などの人材教育等等、人に関わる経営課題が山積している状況です。)

今回は福祉業界に特化した人材サービス会社を経営される山下氏をお招きしお話を伺います。同社では介護士、看護師、保育士の「派遣」「紹介」「紹介予定派遣」のほか、各種資格講座やセミナーをスクール(関西・関東)と出張型セミナーで展開し、近年ではさらなる福祉サービスの質の向上を目指し自社施設を運営されるなど、経営的視点で人に関わるソリューションを提供されています。

「必要はビジネスの種」といわれますが、福祉サービス提供事業者及びそれをサポートする事業者の可能性は計り知れません(課題が山積していることの現れです)。福祉分野は恒常的な人材不足に加え、安全と質を担保するための規制が成長のボトルネックとなることから、福祉サービス提供者と人材会社などの彼らをサポートする事業者との有機的連携が望まれています。日本の「ものづくり大国」を支えたメーカーと多種多様な下請け各社との連携にも似た協業が望まれています。医療、介護などの福祉分野の方はもとより、業界問わず経営に関わる方には是非ともお聞きいただきたくご案内申し上げます。

2016年11月

特定非営利活動法人 医療事業再生機構

記

- テーマ:「人材会社との正しい付き合い方とその後の定着について」=なぜ紹介された看護師はすぐに辞めるのか? =
- 講師: 山下吾一 氏 株式会社ニッソーネット 代表取締役社長、一般社団法人日本介護ベンチャー協会大阪支部支部長
- 開催日時: 2016年12月9日(金曜日)18:30~20:30

以上

※ 当研究会は完全予約制です。【要参加票】

参加を希望される方は御手数ですがOMBR:(特非)医療事業再生機構のホームページよりお申込戴くか、info@npombr.org 宛にご連絡ください。